

第5回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー 紙資料の保存管理の実際  
改修工事からみる総合図書館の資料保存

総合図書館情報サービス課資料整備チーム  
中村美里

## 1. はじめに

東京大学附属図書館「新図書館計画」は、総合図書館別館の新設や本館の大改修工事等を経て、2020年11月のグランドオープンをもって完了した。この期間中は工期を4つに分けて工事が進められ、第III-3期（2018.9～2019.3）では書庫の改修工事が実施された。今回の発表では、紙資料の保全を、書庫改修工事の実務から考えてみることにする。

## 2. 書庫の改修工事と資料の再配置について

### 2.1 総合図書館所蔵資料の配置方針

2018年度にまとめられた所蔵資料の配置方針の主な内容は、次のとおりである。

- ・本館の書庫（貴重書庫等を含む）は、保全に注意を要する比較的古い年代の資料を安定的・固定的に保存していくためのスペースとする
- ・開架書架は、従来通り学生用図書や参考図書等を配置する
- ・開架図書で、利用頻度が低くなったものは順次、自動書庫に移動する
- ・自動書庫に配置する資料は、「総合図書館が所蔵する資料のうち、本館改修工事に伴う書庫スペースの減少に伴い本館に収容できない資料（一般図書、製本雑誌、その他の資料）」とする
- ・III-3期工事に向けた書庫資料の再配置にあたり、上記との整合性を勘案の上、比較的近年の状態のよい一般図書、ならびに製本雑誌を対象として自動書庫への搬入を行う

### 2.2 資料配置計画（2018年度作成）

配置場所		冊数 (2017年時点)	対象資料
本館	開架書架	約17万冊	・学習用図書，参考図書，新着雑誌
	書庫	約46万冊	・和装本，軸物，大型書 ・従来の書庫図書のうち，保全に注意を要するもの
	貴重書庫 準貴重書庫 コレクション室 マイクロ資料室	合計 約2万点	・貴重図書指定基準，準貴重図書指定基準に適合する資料 およびその候補資料 ・陽外文庫書入れ本，取り扱いに注意を要する資料 ・マイクロリール，フィッシュ
別館	自動書庫	約61万冊	・製本雑誌 ・本館開架書架（学習用図書，参考図書）のうち，利用頻度の少ない図書 ・従来の書庫図書のうち，状態のよいもの（洋装本） ・学位論文（論文博士）
・上記に加え，アジア研究図書館資料を開架書架，書庫，自動書庫に収容 ・別館自動書庫には，各部局等から移管される人文社会科学系製本雑誌を順次収容予定			

上記の計画に沿って、改修工事後の書庫、新設された自動書庫への入庫などの資料配置が進められた。この際の具体的な資料の移動状況や、資料の保全を踏まえた設備の高度化などについて紹介する。

### 3. 和漢古書の保全について

新図書館計画では当初から、書庫資料のうち特に貴重な和漢古書は一般図書とは別置き、利用やアクセスのレベル分けを行うことが検討されていた。そのため、2019年頃から和漢古書資料保全のため、利用条件の再検討を以下のとおり行った。その経緯について紹介する。

- ・ 書庫内に和漢古書専用書庫が新設されることもあり、和漢古書のあるべき利用条件について検討を開始した。それに際し、和漢古書の利用頻度が高い部局の教員に、資料保全のため和漢古書の利用条件を厳しくすることなどについて意見を伺った。
- ・ 教員からの意見としては、利用が制限されることは望ましくはないという意見があったが、全体的には資料保全のため原本の利用に制限がかかることはやむを得ないという意見が多かった。また、利用の制限にあたっては画像がウェブ上で公開されていることが望ましい、他大学のように多くの画像を公開してほしいといった、デジタル化を求める一定の声が寄せられた。
- ・ 検討の結果、貸出は原則として本学教員・名誉教授に対してのみ行い、院生・研究員は事前申請により許可するなど、大幅に利用条件を変更することになった。

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/materials/stack-classics>

### 4. 資料補修の取り組みについて

- ・ 総合図書館情報サービス課資料整備チームでは、2名の担当者が資料の補修を行っている。（※なお、資料補修のみを行っているのではなく、カウンター業務、雑誌製本業務、新着図書装備なども行っている。）
- ・ 表紙の全面改装が必要なものなどは外注に出しているが、簡易に補修できるものや劣化の進行を防ぐための手当てなどは随時、資料整備チームで対応している。その実例について簡単に報告する。

以上